



## 2026年8月期 第1四半期決算短信〔IFRS〕(連結)

2026年1月14日

上場会社名 プリモグローバルホールディングス株式会社 上場取引所 東  
コード番号 367A URL <https://www.primoghd.co.jp/ja/index.html>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 澤野 直樹  
問合せ先責任者 (役職名) 管理管掌執行役員 (氏名) 佐田 大輔 (TEL) 03(6226)6261  
配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無 : 有  
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2026年8月期第1四半期の連結業績(2025年9月1日～2025年11月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前利益		四半期利益		親会社の所有者に 帰属する四半期利益		四半期包括利益 合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年8月期第1四半期	7,657	17.4	1,201	67.7	1,112	86.2	797	75.1	797	75.1	1,979	119.4
2025年8月期第1四半期	6,524	8.7	716	2.6	597	6.5	455	2.9	455	2.9	902	△3.4

	基本的1株当たり 四半期利益		希薄化後1株当たり 四半期利益	
	円	銭	円	銭
2026年8月期第1四半期	91	15	87	04
2025年8月期第1四半期	52	06	52	06

(注) 前第1四半期連結累計期間の希薄化後1株当たり四半期利益については、新株予約権は存在するものの、権利確定が上場条件付きとなっているため希薄化効果の計算対象外ですので、基本的1株当たり四半期利益と同額としております。

#### (2) 連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に 帰属する持分	親会社所有者帰属 持分比率	1株当たり親会社 所有者帰属持分
	百万円	百万円	百万円	%	円 銭
2026年8月期第1四半期	47,514	19,133	19,133	40.2	2,181.83
2025年8月期	45,949	18,052	18,052	39.2	2,060.58

#### (3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 四半期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2026年8月期第1四半期	461	△37	△1,287	2,932
2025年8月期第1四半期	△108	△55	△658	2,398

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年8月期	—	0.00	—	105.00	105.00
2026年8月期	—	—	—	—	—
2026年8月期(予想)	—	60.00	—	60.00	120.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2026年8月期の連結業績予想（2025年9月1日～2026年8月31日）

(%表示は、対前期増減率)

		売上収益		営業利益		税引前利益		当期利益		親会社の所有者に帰属する当期利益	基本的1株当たり当期利益
通期	百万円 30,000	% 7.1	百万円 3,650	% 16.5	百万円 3,200	% 17.1	百万円 2,170	% 21.5	百万円 2,170	% 21.5	円 銭 248.08

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### ※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無  
新規 — 社（社名） — 、除外 — 社（社名） —

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年8月期1Q	8,747,143株	2025年8月期	8,747,143株
② 期末自己株式数	2026年8月期1Q	—株	2025年8月期	—株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年8月期1Q	8,747,143株	2025年8月期1Q	8,747,143株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は : 無  
監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- (1) 当社グループは、国際会計基準を適用しております。
- (2) 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- (3) 2026年1月14日に当社ウェブサイト(<https://www.primoghd.co.jp/ir/>)に決算説明資料を掲載予定です。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当四半期の財政状態の概況 .....	3
(3) 当四半期のキャッシュ・フローの概況 .....	3
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 要約四半期連結財政状態計算書 .....	5
(2) 要約四半期連結損益計算書 .....	7
(3) 要約四半期連結包括利益計算書 .....	8
(4) 要約四半期連結持分変動計算書 .....	9
(5) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	10
(6) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	11
(適用される財務報告の枠組み) .....	11
(継続企業の前提に関する注記) .....	11
(セグメント情報) .....	12

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間（2025年9月1日～2025年11月30日）におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続く中で、個人消費に持ち直しの動きがみられるなど、全般的に緩やかな回復がみられました。一方、物価上昇の継続が個人消費に及ぼす影響に加え、米国の通商政策の今後の影響等、先行きが不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当第1四半期連結累計期間における当社グループの連結業績は、売上収益7,657百万円（前年同期比17.4%増）、営業利益1,201百万円（前年同期比67.7%増）、親会社の所有者に帰属する四半期利益797百万円（前年同期比75.1%増）と、大幅な増収増益となりました。また、国内外店舗数については、当第1四半期連結累計期間末時点で133店舗となりました。

当社グループでは「最高（プリモ）の夢（おもい）を最高（プリモ）の幸（かたち）に」の企業理念に基づき、2025年8月期から2027年8月期の3か年にわたる中期経営計画を推進しております。①海外展開戦略においては、国内最大級のプライダルジュエリー売上規模で磨き上げたブランド・商品・顧客サービスを、出店余地の大きなアジア各地域においても展開することで、グローバルでの更なる躍進を図ります。継続的なブランド価値の向上・認知拡大を目指し、新規出店や移転・改装を進めてまいります。②マルチブランド戦略においては、当社グループのオリジナルブランドである「I-PRIMO」と、ニューヨーク発祥のダイヤモンドブランドである「LAZARE DIAMOND」、海外事業における提携ブランドである「K. UNO」「STAR JEWELRY」によるマルチブランド展開によって、幅広い顧客層の獲得を推進しております。③CRM戦略においては、国内の年間約4万組の顧客データを基盤にして、既存のお客様の記念日等におけるアニバーサリージュエリーのご提案により、LTV（Life Time Value）を高める施策を進めております。これらにより、今後とも日本基準の高い商品品質はもちろんのこと、一生の記念となるお買い物、きめ細やかなサービスと日本式の「おもてなし」による最高の顧客体験で、国内外のお客様に広く提供してまいります。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

#### （国内事業）

国内事業の当第1四半期連結累計期間における売上収益は4,899百万円（前年同期比15.3%増）、セグメント利益は925百万円（前年同期比38.8%増）と、大幅な増収増益となりました。プラチナ等の原材料価格の急騰の影響を受ける中、前期における適時の商品価格見直しによる客単価の上昇や、マーケティングの奏功による客数の増加、スタッフの接客スキル向上への取り組み等により、業績は力強く伸長いたしました。

今後の事業展開については、「I-PRIMO」と「LAZARE DIAMOND」のブランド価値および顧客体験の更なる向上に努めてまいります。まず、引き続き各ブランドが有する不変的な価値をお客様に効果的に伝えるため、広告表現や広告媒体を精査し、ご来店前のお客様により良くブランドをご理解いただくとともに、実際にご来店されたお客様には、ブランドの世界観を表現した店づくりと、人財教育に基づく高い接客サービスを体感していただくことにより、更なるブランドイメージの向上に取り組んでまいります。

商品面では、「I-PRIMO」の婚約指輪に使用するダイヤモンドについて、ダイヤモンド研磨工場との連携により、当社グループが求める高い品質基準をプロダクション工程から監修した「PRIMO QUALITY DIAMOND」や、独自の「着け心地メソッド」を採用した軽やかな着け心地の商品、独自組成の新素材である「パールブラウンゴールド」の商品等を展開し、多くのお客様にご支持いただいております。今後もオリジナリティのある付加価値商品によって、他社との差別化に取り組むとともに、人生の重要な節目で選ばれるブランドとしてお客様に長く愛されるよう、アニバーサリージュエリー商品の拡充やお客様とのコミュニケーション強化を進めてまいります。

店舗開発では、商圈や購買行動の変化に伴い、より集客力のあるエリアや有力商業施設内への移転、店舗設備の改装を進めており、2025年10月に「I-PRIMO ららぽーとTOKYO-BAY店」、同11月に「I-PRIMO 金沢店」の移転リニューアルを行いました。

#### （海外事業）

海外事業の売上収益は2,759百万円（前年同期比21.0%増）、セグメント利益は275百万円（前年同期比460.2%増）と、大幅な増収増益となりました。海外事業比率は、売上収益において36.0%、セグメント利益において22.9

%となりました。中国本土における不動産市場の停滞等に伴う景気低迷は依然継続しておりますが、現地におけるマーケティング施策の精査と営業体制の強化により、前期からの中国本土の業績回復は継続しております。

今後の事業展開については、日本で培ったブランド・商品・顧客サービスを活かしつつ、①各市場におけるブランドの認知・価値の向上、②各市場の顧客ニーズに応じた商品ラインナップ・サービスの提供および販売・価格・マーケティング戦略の実行、③中国本土や東南アジアといった出店余地のある市場における出店の推進、④各市場ローカル人財のグローバル登用といった取組を進めており、当連結会計年度内においては、中国本土において3店舗、マレーシアにおいて1店舗の出店を予定しております。

これらを受け2025年11月には、中国本土の高級商業施設に「I-PRIMO Zhengzhou Grand Emporium Store」（鄭州市）を新規オープンいたしました。また、国内事業と同様に店舗の移転・改装を進めており、同11月に「I-PRIMO Shenzhen MixC Store」（深圳市）の移転リニューアルを行いました。

## （2）当四半期の財政状態の概況

当第1四半期連結累計期間末における資産、負債及び資本の状況は次のとおりです。

流動資産は12,624百万円となり前連結会計年度末に比べ112百万円増加致しました。これは主に、受注高の増加にともない営業債権及びその他の債権が504百万円、棚卸資産が424百万円増加した一方で、主に配当金の支払等により現金及び現金同等物が811百万円減少したことによるものであります。

非流動資産は34,890百万円となり前連結会計年度末に比べ1,452百万円増加致しました。これは主に、円安環境の下での為替換算によりれのんが741百万円増加、無形資産が350百万円増加したものであります。

この結果、総資産は47,514百万円となり前連結会計年度末に比べ1,564百万円増加致しました。

また、流動負債は10,168百万円となり前連結会計年度末に比べ160百万円増加致しました。これは主に、受注高の増加にともない営業債務及びその他の債務が736百万円増加した一方で、契約負債が153百万円減少、主に従業員への賞与支給によりその他の流動負債が386百万円減少したことによるものであります。

非流動負債は18,212百万円となり前連結会計年度末に比べ323百万円増加致しました。これは主に、借入金が100百万円、リース負債が104百万円増加したことによるものであります。

この結果、負債は合計28,381百万円となり前連結会計年度末に比べ484百万円増加致しました。

資本は合計19,133百万円となり前連結会計年度末に比べ1,080百万円増加致しました。これは主に、四半期利益797百万円を計上したものの剰余金の配当918百万円を行ったことにより利益剰余金が減少した一方で、主に在外営業体の換算差額の発生によりその他の資本の構成要素が1,201百万円増加したことによるものであります。

## （3）当四半期のキャッシュ・フローの概況

当第1四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末と比べ811百万円減少し、2,932百万円となりました。

また、当第1四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況と要因は次のとおりであります。

### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果、獲得した資金は461百万円（前年同期は108百万円の使用）となりました。

これは主に、税引前四半期利益が1,112百万円（前年同期は597百万円）、減価償却費及び償却費の計上が471百万円（前年同期は551百万円）あったことによるものであります。

### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果、使用した資金は37百万円（前年同期は55百万円の使用）となりました。

これは主に、有形固定資産の取得による支出43百万円（前年同期は65百万円）、敷金及び保証金の回収による収入17百万円（前年同期は18百万円）あったことによるものであります。

### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果、使用した資金は1,287百万円（前年同期は658百万円の使用）となりました。

これは主に、配当金の支払額が771百万円、リース負債の返済による支出が516百万円（前年同期は594百万円）あったことによるものであります。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその達成を約束する趣旨のものではありません。

## 2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記

### (1) 要約四半期連結財政状態計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年11月30日)
資産		
流動資産		
現金及び現金同等物	3,743	2,932
営業債権及びその他の債権	2,087	2,592
棚卸資産	6,630	7,055
その他の流動資産	50	44
流動資産合計	12,512	12,624
非流動資産		
有形固定資産	1,354	1,378
のれん	16,491	17,232
無形資産	10,029	10,380
使用権資産	3,322	3,607
持分法で会計処理されている投資	105	103
その他の金融資産	1,351	1,355
繰延税金資産	780	822
その他の非流動資産	1	10
非流動資産合計	33,437	34,890
資産合計	45,949	47,514

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年11月30日)
負債及び資本		
負債		
流動負債		
営業債務及びその他の債務	1,778	2,514
契約負債	3,602	3,448
借入金	996	1,004
未払法人所得税等	510	410
リース負債	1,684	1,742
引当金	13	11
その他の流動負債	1,423	1,036
流動負債合計	10,007	10,168
非流動負債		
借入金	12,447	12,548
リース負債	2,945	3,050
引当金	200	205
繰延税金負債	2,282	2,395
その他の非流動負債	13	13
非流動負債合計	17,889	18,212
負債合計	27,896	28,381
資本		
資本金	100	100
資本剰余金	6,860	6,860
利益剰余金	6,278	6,157
その他の資本の構成要素	4,813	6,015
親会社の所有者に帰属する持分合計	18,052	19,133
資本合計	18,052	19,133
負債及び資本合計	45,949	47,514



(2) 要約四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2024年9月1日 至2024年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2025年9月1日 至2025年11月30日)
売上収益	6,524	7,657
売上原価	2,352	2,857
売上総利益	4,171	4,800
販売費及び一般管理費	3,485	3,653
その他の収益	75	60
その他の費用	45	6
営業利益	716	1,201
金融収益	7	44
金融費用	116	127
持分法による投資損失	10	5
税引前四半期利益	597	1,112
法人所得税費用	142	314
四半期利益	455	797
四半期利益の帰属		
親会社の所有者	455	797
四半期利益	455	797
1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期利益(円)	52.06	91.15
希薄化後1株当たり四半期利益(円)	52.06	87.04

(3) 要約四半期連結包括利益計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2024年9月1日 至2024年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2025年9月1日 至2025年11月30日)
四半期利益	455	797
その他の包括利益		
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の換算差額	446	1,181
小計	446	1,181
税引後その他の包括利益	446	1,181
四半期包括利益合計	902	1,979
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	902	1,979
四半期包括利益	902	1,979

(4) 要約四半期連結持分変動計算書

前第1四半期連結累計期間(自2024年9月1日 至2024年11月30日)

(単位: 百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分					資本 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	その他の資本の構 成要素	合計	
2024年9月1日残高	100	8,647	2,705	4,248	15,700	15,700
四半期利益			455		455	455
その他の包括利益				446	446	446
四半期包括利益	—	—	455	446	902	902
株式報酬				5	5	5
欠損填補		△1,786	1,786		—	—
所有者との取引額等合計	—	△1,786	1,786	5	5	5
2024年11月30日残高	100	6,860	4,946	4,700	16,608	16,608

当第1四半期連結累計期間(自2025年9月1日 至2025年11月30日)

(単位: 百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分					資本 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	その他の資本の構 成要素	合計	
2025年9月1日残高	100	6,860	6,278	4,813	18,052	18,052
四半期利益			797		797	797
その他の包括利益				1,181	1,181	1,181
四半期包括利益	—	—	797	1,181	1,979	1,979
株式報酬				20	20	20
剰余金の配当			△918		△918	△918
所有者との取引額等合計	—	—	△918	20	△898	△898
2025年11月30日残高	100	6,860	6,157	6,015	19,133	19,133

(5) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2024年9月1日 至2024年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2025年9月1日 至2025年11月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期利益	597	1,112
減価償却費及び償却費	551	471
減損損失	1	—
受取利息	△0	△1
支払利息	116	126
持分法による投資損益 (△は益)	10	5
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△285	△265
営業債権及びその他の債権の増減額 (△は増加)	△468	△349
営業債務及びその他の債務の増減額 (△は減少)	△34	520
契約負債の増減額 (△は減少)	128	△244
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△290	△304
その他	64	△174
小計	389	894
利息の受取額	0	1
利息の支払額	△114	△15
法人所得税の支払額	△417	△419
法人所得税の還付額	32	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	△108	461
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△65	△43
無形資産の取得による支出	△6	△1
敷金及び保証金の差入による支出	△2	△9
敷金及び保証金の回収による収入	18	17
その他	—	△0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△55	△37
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△64	—
配当金の支払額	—	△771
リース負債の返済による支出	△594	△516
財務活動によるキャッシュ・フロー	△658	△1,287
現金及び現金同等物に係る換算差額	20	52
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△801	△811
現金及び現金同等物の期首残高	3,199	3,743
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,398	2,932

(6) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項

(適用される財務報告の枠組み)

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第5条第2項（ただし、同基準第5条第5項に定める記載の省略を適用）に準拠して作成しており、国際会計基準第34号「期中財務報告」で求められる開示項目の一部を省略しております。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

(1) 報告セグメントの概要

当社の事業セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分を決定し、また業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっている事業セグメントを基礎に決定しております。

なお、報告セグメントの決定に際して集約された事業セグメントはありません。

当社グループは、主にジュエリーを販売しており、国内と海外の各市場の特性に応じた包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。したがって、当社グループの事業は、地域別に構成されており、「国内事業」と「海外事業」を報告セグメントとしております。

「国内事業」は、プリモ・ジャパン株式会社が国内において事業を営んでおり、「海外事業」は、海外子会社4社が中華圏（中国、台湾、香港）及びシンガポールにおいて事業を営んでおります。

(2) 報告セグメントに関する情報

報告セグメントの会計方針は、当社グループの会計方針と同一であります。

また、報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。なお、セグメント間の内部取引における価額は、独立企業間価格に基づいております。

報告セグメントの売上収益及び利益に関する情報は、以下のとおりです。

前第1四半期連結累計期間（自 2024年9月1日 至 2024年11月30日）

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)	要約四半期連結 財務諸表計上額
	国内	海外	計		
売上収益					
外部顧客への売上収益	4,243	2,280	6,524	—	6,524
セグメント間の売上収益	5	—	5	△5	—
合計	4,249	2,280	6,530	△5	6,524
セグメント利益（営業利益）	667	49	716	△0	716
金融収益	—	—	—	—	7
金融費用	—	—	—	—	△116
持分法による投資損失（△）	—	—	—	—	△10
税引前四半期利益	—	—	—	—	597
（その他の項目）					
減価償却費及び償却費	△259	△291	△551	—	△551
減損損失	—	△1	△1	—	△1

(注) セグメント間の売上収益及びセグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去及び未実現利益の控除によるものです。

当第1四半期連結累計期間（自 2025年9月1日 至 2025年11月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント			調整額 (注)	要約四半期連結 財務諸表計上額
	国内	海外	計		
売上収益					
外部顧客への売上収益	4,897	2,759	7,657	—	7,657
セグメント間の売上収益	1	—	1	△1	—
合計	4,899	2,759	7,659	△1	7,657
セグメント利益（営業利益）	925	275	1,200	0	1,201
金融収益	—	—	—	—	44
金融費用	—	—	—	—	△127
持分法による投資損失（△）	—	—	—	—	△5
税引前四半期利益	—	—	—	—	1,112
（その他の項目）					
減価償却費及び償却費	△256	△214	△471	—	△471
減損損失	—	—	—	—	—

（注）セグメント間の売上収益及びセグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去及び未実現利益の控除によるものです。